

「余裕持った運転を」

冬季の交通事故防止学ぶ

古川

路面凍結などに伴う交通事故増加が懸念される冬季を迎え、宮城労働基準協会古川支部交通労働災害防止部会(池田功一部会長)は22日、研修会を大崎市

三本木公民館で開いた。部会員ら29社35人が、近年の交通事故の例をもとに事故防止に向けた心構えなどを学んだ。古川署交通課の鎌田

貴之課長によると、19日現在、管内でことし発生した人身事故は192件(速報値)で、前年同日と比べ23件増えた。死者は3人減の1人だが、負傷者は41人増の237人になっている。鎌田課長は、事故の発生率が高い時間帯に



交通事故防止の注意点を訴えた鎌田課長

通勤・通学時間帯(午前7～9時、午後5～6時)を挙げた。過去5年間で初雪が降った日が大崎市古川で11月30日、同市鳴子温泉で同24日とし、「天気予報を参考にし余裕を持った運転を心掛けてほ

しい」と呼び掛けた。日本損害保険協会東北支部の柴原雅之さんは、携帯電話使用中の事故が2020年以

降、増え続けていることを紹介。昨年全国で起きた死亡事故のうち、運転中に携帯電話などを使用して発生した事故は、使っていなかった場合の3・1倍に上ったことに触れた。